

地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。

今号では、北海道地域ブロックおよび関東地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

北海道地域ブロック から

近藤 尚也（北海道医療大学）

北海道ブロックの活動「院生・若手研究会」

北海道には大学院を持つ大学が少なく、院生・若手研究者が交流をする場が持ちにくいことが、北海道ブロックの課題のひとつである。昨年度から若手メンバーを中心に、「院生・若手研究会」の試みを開始したので、以下紙面を借りてご報告したい。

2015年度に、大学院生や若手研究者が、「研究会を企画運営することを通して交流すること」をねらいとして、10名ほどの有志が集まり準備会が設けられた。その後、第1回「院生・若手研究会」を2015年8月に実施した。以降、定期的な開催を継続し、現在は年4回ペースでの実施となっている。十数名いるメンバーの多くは大学院生であるが、現場経験のあるものも多い。2016年度には新たなメンバーも加入し、少しずつ研究交流の輪を広げている。研究会の開催日時については、会員への周知を行い、興味があれば誰でも参加が可能な体制をとっている。また、非会員に対しても、参加を通じた入会のきっかけとして期待される。

これまでの実施内容に関して、2015年度は、メンバーがこれまで取り組んできた（取り組んでいる）研究について、その研究方法に焦点をあてて報告する形で研究交流を行った。多様な領域からさまざまな質的量的手法の報告があり、参加メンバーの今後の研究に向けた良い刺激とすることができた。2016年度は、メンバーからの提案を踏まえた内容で活動を進めている。6月には研究発表方法について、文献資料や発表経験がある参加者の報告から、口頭、ポスター発表の組み立てについて意見交流が行われた。また、9月には論文査読に焦点を当て、学会誌の評価項目や査読に関する文献等を資料として実際に論文を読み、その内容や投稿時のポイントについて意見交換を行った。研究活動を始めたばかりの院生・若手研究者にとって良い情報交換の場となった。今後は外部講師を招くなど、より深い研究的視点を学びながら研究交流を深めていく予定である。

北海道において、社会福祉に関する様々な領域の院生・若手研究者が集まり、研究交流をする機会はほとんどないため、とても貴重な機会となっている。今後の北海道の社会福祉研究における活躍を期待しつつ、研究会を継続していきたい。

関東地域ブロック から

関東地域ブロック担当理事
久保 美紀（明治学院大学）

関東地域ブロック部会（略称：関東部会）の会員数は約 1800 人（2016 年 10 月現在）で、全学会員の 36%程度を占める、もっとも規模の大きい部会となっています。活動の実施計画の立案、管理・運営をするために運営委員会を設置しています。

関東部会は、各種研究会・学会の開催が多いという地域特性を考慮して、大学院の学生など社会福祉学研究に取り組み始めた方や、発表機会を求めている研究者や実践者の研究活動の活性化と研究交流の促進に焦点を当てて活動を行っているところに特徴があります。

具体的な活動の柱は、まず、部会研究大会の開催です。本年度は、2017 年 3 月 11 日（土）に明治学院大学白金校舎で開催することになりました。大会テーマを「当事者固有の文化にもとづいた社会福祉の構築」（仮題）として、現在、講演・シンポジウムの構成を詰めているところです。それとともに、自由研究発表の場として、①研究報告部門、②萌芽的研究報告部門、③実践報告部門の 3 つの部門を設けております。また、2012 年度より研究報告のなかから研究大会奨励賞を授与しています。ぜひ日ごろの研究・実践の成果の発表の場として活用してください。なお、研究大会抄録集は、部会ホームページ上に 2011 年度開催分から掲載しておりますので、参考にしてください。

次に、機関誌『社会福祉学評論』（電子ジャーナル）の刊行です。とくに若手研究者・実践者の研究成果の発表機会を増やすことを意図して、年 4 回の投稿締切を設け、教育的査読を行い、掲載可となれば電子ジャーナル上で随時公開しています。その過程は、査読委員の方々のご尽力がなければ成り立たないことはいまでもありません。この場を借りて、お礼申し上げます。また、『社会福祉学評論』は創刊号より部会ホームページ上に掲載しており、まさに研究成果の世界への発信の場となっています。

第三に、会員の研究交流の促進として、部会ホームページ上に公開講座・講演会、博士論文公開審査、最終講義等の情報を掲載するとともに、紙媒体でニューズレターの発行を行っています。

会員のみなさまに積極的にご参加いただき、関東部会をより魅力あるものにしていきたいと思っております。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。